

チャレンジ！！オープンガバナンス 2019 市民／学生応募用紙

| | | | |
|-------------------|------------------------|---------------------------------|------|
| 地域課題タイトル (注1) | No. | タイトル | 自治体名 |
| | 20_1/1_1 | 兵庫県三田市を舞台とした定住人口・交流人口・関係人口の増加戦略 | 三田市 |
| アイデア名(注2) (公開) | Generating Novel Award | | |

(注1) 地域課題タイトルは、COG2019 サイトの中に記載してあるエントリー自治体(連合)が掲げる地域課題を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームが応募されるアイデアにつけるものです。アイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

| | | | |
|-----------|--|----------------|--|
| チーム名(公開) | NEXT STAGE | | |
| チーム属性(公開) | <input type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input checked="" type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム | | |
| メンバー数(公開) | 3 名 | | |
| 代表者情報 | | 町上 裕城 | |
| メンバー情報 | 氏名(公開) | 武本 修汰 菅田 雄大 | |

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2019_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2019 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2019@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「3. 自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあり得ます。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様でお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をやる社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

三田市の教育

定住者の減少

<解決アイデアの内容>

私たちが上記に挙げたような課題を解決するアイデアは、三田市の古民家やまちづくり協働センターを利用し大学生が運営するユーススペースを作るというものです。この案は、三田市に中高生が無料で勉強できるようなスペースを作り三田市全体学力を向上させるとともに、小中高生と大学生と地域の人とのコミュニティを形成する。それによって、三田市全体の教育を発展させ定住者を増加させる狙いがあります。詳しい内容として、先ほど述べた大学生が運営する自習スペースのほかに、ボランティア講師と小中高生をマッチングするアプリを作り講演会や補習、キャリア講演などを行うというものです。ボランティア講師が行う講義とは学校の授業の補習だけではなく、数学や英語などをただただ勉強していると面白くないような科目を面白く感じてもらえるような講義、教科の幅を超えた学習や、将来にも役立つようなキャリア講演を行おうと考えています。この一連のアイデアを運営するのはすべて大学生と地域の人です。大学生は専門的な学問を学んでいることから、それを簡単な表現や身近なものに変えて、アウトプットできる力を養うとともに、子供たちの興味をひいたりすることができる。また、地域の人を加えることによって、地域特有の伝統を知ったり、年齢が違う人たちとコミュニケーションをとることによって、幅広い視野を手に入れることができる。このように三田市が教育に力を入れることで三田市が掲げている「子育てするならゼットタイ三田」を強調するとともに、このスローガンが三田市だけでなくほかの地域に浸透し、三田市の定住者が増加するのではないかと考えました。これが、自分たちが今回提案させていただく解決案です。

(2) アイデアの理由（公開）

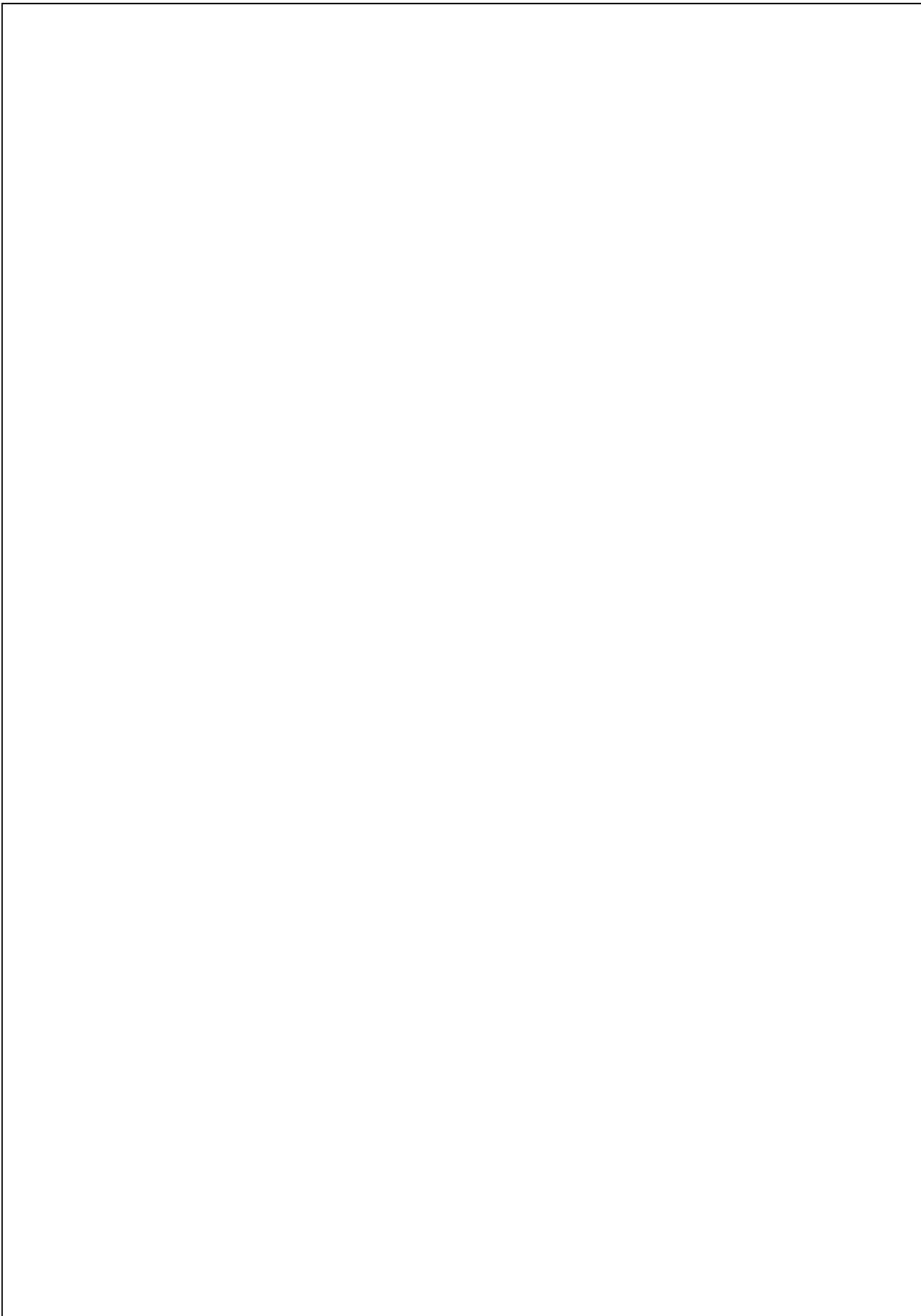
このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

私たちが上記のようなアイデアを提案した理由は主に2つあります。

1つ目は三田市が現在行っている教育支援の充実性です。三田市では、乳児や幼児の保護者、小学生を対象とした学習支援は充実しています。ですが、中学生や高校生に対しての学習支援は小学生以下に行っている学習支援と比べると劣っていると感じています。三田市が行った「市民意識調査」の結果によると、高齢になるにつれて三田市に住み続けたいと思う人の割合が増加しているという結果が出ています。なぜこのような現象が起こっているのかと考えたところ、高齢層は地域活動の参加率が高いという調査結果が出ており、自分たちでこの街を作りたいという思いが強いという傾向が伺えます。このことから、三田市に住んでいる高齢層は地域愛が強いため今後も三田市に住み続けようと思うのだと考えました。それに対して若者すなわち10代・20代は今後も三田市に住み続けたいと思っている人が少ないです。「三田市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定に関するアンケート調査」によると、三田市で理想の子ども的人数を実現するために妨げとなっているものの中で1番割合が大きいのが養育費についての問題です。この調査結果を見ても、三田市内でも「子育てするならゼツタイ三田」があまり浸透していないことが伺えます。小中高生が塾や予備校に行くとなると学費以外にもより多くのお金がかかりそれだけでも家庭の負担にもなります。また、今「関西住みたい町ランキング」の順位が急上昇している明石市は育児・教育支援が整っていることが伺える。なので、教育支援制度を整えると、子育てしやすいという印象が伝わり定住化につながるからです。

2つ目は三田市での中高生が勉強できるスペースの問題です。三田市では中高生が無料で勉強できるようなスペースは確かにありますが、その各場所での利用方法が定まっていないという大きな問題があります。現在、勉強可能な場所としては、フラットシニア・ユース広場や図書館、各市民センター、キッピーモールなどがあり、一見充実しているように思えますが、シニア・ユース広場や各市民センター、キッピーモールなどは三田市民が自由に使えるため、中高生以外にも市民団体などが使用しています。私たちも1度各場所に足を運ばせてもらったのですが、勉強している周りでシニアの方が市民活動を行っていたり交流をしていたりなど集中して勉強できるかといわれると厳しい環境にあります。また、小学生を対象とした「こうみん未来塾」などのイベントが充実しているのに対して、中高生対象で行われているものが少ないため中高生は積極的に参加していません。また、いきなり市民活動やイベントが行われるため、勉強しに来た中高生はそのことを知らずに利用できなかつたりすることがあり、イベントの周知度が低いこともわかります。中高生が集中して勉強でき、将来ためになるイベントができるような場所を作りたいと思ったのが、この案を提案しようと考えた2つ目の理由です。

上記に述べたような理由から私たちは三田市に大学生主体のユーススペースが必要だと考えました。



(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

この案を実現するために必要な資源は、場所と協力してくれる人です。まず、場所についてですが、新しく作るとなると、お金も場所も時間もかかり現実的ではありません。そこで、今あるスペースを活用することで、ユーススペースの場所を確保します。その場所として、キッピーモールのまちづくり協働センターの余裕のあるスペースを活用することに加えて、今学生拠点未来会議という関西学院の学生主体のまちづくりの会議が行われている古民家の活用です。先ほど述べた、まちづくり協働センターの会議室や講座室は現在活発に利用されているため、そこを活用するのは困難である。しかしながら、余裕スペースがあることや本棚の配置を変えることによって余裕スペースを生み出すことができると考えています。またもう一つ課題となってくるのが、協力してくれる人です。このユーススペースを実現するにあたっては大学生の協力が不可欠です。協力してくれる大学生の調達に関しては私たちの周りにいる大学生への声掛けからの拡散や、授業での宣伝、市役所の方々に協力してもらっての宣伝などを行って地道ではあると思いますが集めていきたいと考えています。また地域の高齢者の方は自分の居場所としてボランティアを希望されていたりするのでそれも活用していこうと考えています。中高生に対しての講義に関しては週に3回、水曜日・金曜日・土曜日を大学生が在中する時間とし、その他の日は自由開放する。この案を実現するための時間軸としては、2020年2月に行われるまちづくりコンテストで三田市役所に提案をして、2020年4月までに場所の配置設計をし、2020年8月から始動という形で行っていこうと考えております。

